

## 沖縄学生就職意識調査

## 就活「自己分析」最多

## 「企業風土判断困難」の声も

「2020年度沖縄県学生就職や「OB・OG訪問」(33人)は比較的少なかった。意識調査」では、就職活動を終了した学生や就活中の学生435人に、就職活動の取り組みを質問し、プロアライアンス(那覇市)の「一面に関連」(264人)が最も多く、次いで「情報収集の環境が悪い」(85人)、「大学・短大・専門学校をサポートが不十分」(61人)となった。大城代表は、県内で若年層の離職率が高いことに触れ、「学生と企業間の人的交流と情報交換の場を通して、双方に有益な情報が得られる機会を作ることがミスマッチの防止につながる」と強調した。質問は計52問。4月中旬にプロアライアンスのホームページで公開する予定。

「2020年度沖縄県学生就職や「OB・OG訪問」(33人)は比較的少なかった。意識調査」では、就職活動を終了した学生や就活中の学生435人に、就職活動の取り組みを質問し、プロアライアンス(那覇市)の「一面に関連」(264人)が最も多く、次いで「情報収集の環境が悪い」(85人)、「大学・短大・専門学校をサポートが不十分」(61人)となった。大城代表は、県内で若年層の離職率が高いことに触れ、「学生と企業間の人的交流と情報交換の場を通して、双方に有益な情報が得られる機会を作ることがミスマッチの防止につながる」と強調した。質問は計52問。4月中旬にプロアライアンスのホームページで公開する予定。

「2020年度沖縄県学生就職や「OB・OG訪問」(33人)は比較的少なかった。意識調査」では、就職活動を終了した学生や就活中の学生435人に、就職活動の取り組みを質問し、プロアライアンス(那覇市)の「一面に関連」(264人)が最も多く、次いで「情報収集の環境が悪い」(85人)、「大学・短大・専門学校をサポートが不十分」(61人)となった。大城代表は、県内で若年層の離職率が高いことに触れ、「学生と企業間の人的交流と情報交換の場を通して、双方に有益な情報が得られる機会を作ることがミスマッチの防止につながる」と強調した。質問は計52問。4月中旬にプロアライアンスのホームページで公開する予定。

「2020年度沖縄県学生就職や「OB・OG訪問」(33人)は比較的少なかった。意識調査」では、就職活動を終了した学生や就活中の学生435人に、就職活動の取り組みを質問し、プロアライアンス(那覇市)の「一面に関連」(264人)が最も多く、次いで「情報収集の環境が悪い」(85人)、「大学・短大・専門学校をサポートが不十分」(61人)となった。大城代表は、県内で若年層の離職率が高いことに触れ、「学生と企業間の人的交流と情報交換の場を通して、双方に有益な情報が得られる機会を作ることがミスマッチの防止につながる」と強調した。質問は計52問。4月中旬にプロアライアンスのホームページで公開する予定。